

生命活動と意識の構造 心、体、活動

浅野良裕

先月は、「生命活動と意識」として、**生命活動の膨大な領域**と、それらが**意識を持って**いるように活動し、人間の心はその中のほんの僅かな領域しか見ていないこと。そしてその**心・意識の領域を拡大**していくことが重要であるということをお話してきました。

なぜなら見えない世界・暗闇で右往左往していても、自分の思うような活動、目的が達成されないからです。企業、公共組織の経営、ガバナンスにおいても、「見える化」「透明化」が求められています。活動・行動や意識を見える化・意識化すれば、問題が明らかになり解決への道が開けるからです。

しかし生命活動・意識の領域は膨大なものなので、ほんの一部の領域だけ発見してそれを基準にして世界を見ては判断を間違えるかもしれません。**全体像、基本構造**を把握する必要があります。

生命活動は大宇宙から小宇宙まで膨大な領域を形成し、その**すべての要素、世界が関連し影響し合っている**ようです。又生命活動のすべての要素は意識を持っているように活動していました。

そして地球が自転し、太陽の周りを公転し、また太陽系自体も銀河の周りを公転していくように、**重層的、相似的な構造**になっているようです。自分、家族、企業、地域、国家、世界等でしょうか。

また活動には**波**があり、生物生命体としては活動と休息。睡眠を繰り返していきます。しかし細胞レベルでは睡眠時に疲れた細胞を修復、再生するために逆に活発に活動しています。活動時にはその作業は停止して。ちょうど**太極図**の白の中に黒があり、黒の中に城があるように。陰極まれば陽になり、陽極まれば陰になる。

メビウスの帯では、表が裏になり、裏が表になっていきます。また**クラインの壺**は外側が内側になり、内側が外側になります。

先月は脳が体をコントロールしているのか、体内の微生物が体をコントロールしているのかよくわからないというお話をしました。また心が体に影響しているのか、体が心に影響しているのか。その局面によってどちらもあるでしょうし、相互に影響し合っているでしょう。

そして心が支配していると思っている人間の行動も、行動科学的に見れば、動物の行動とそんなに変わりがないとか、他者や集合意識からの影響で行動しているとも考えられ、**どこまでが自分の意識の領域**と言えるか分からなくなってくるかもしれません。

上が下になり下が上になる。前が後になり後が前になる。表が裏になり裏が表になる。内が外になり外が内になる。このように生命・意識の世界は**単線的でなく反転的、多次元**的であり全体、部分を掌握するのは難しいのかもしれません。

意識を拡大することが必要であると初めに言いましたが、逆に**無意識の意識状態**で流れに任せる方が良いとも言えそうです。どちらも正解で両方を同時に体験することがこの世界を楽しむコツなのではないでしょうか。